

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月10日
【四半期会計期間】	第72期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	株式会社日伝
【英訳名】	NICHIDEN Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 福家 利一
【本店の所在の場所】	大阪市中央区上本町西一丁目2番16号
【電話番号】	(06)7637 - 7000（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 管理本部長 寒川 睦志
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区上本町西一丁目2番16号
【電話番号】	(06)7637 - 7000（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 管理本部長 寒川 睦志
【縦覧に供する場所】	株式会社日伝 東京支店 （東京都台東区台東四丁目19番18号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第2四半期 連結累計期間	第72期 第2四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	59,151	65,380	123,964
経常利益 (百万円)	2,662	3,518	6,082
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,894	2,418	4,245
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,192	1,886	4,249
純資産額 (百万円)	81,250	83,153	83,307
総資産額 (百万円)	115,391	118,004	120,560
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	60.34	77.02	135.20
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	70.4	70.5	69.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,911	792	3,068
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,425	1,185	3,770
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,499	2,271	1,715
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	16,981	11,526	15,652

回次	第71期 第2四半期 連結会計期間	第72期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	31.56	38.70

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、ロシアのウクライナ侵攻長期化等による影響もあり、未だ不透明感が残るものの、中国における都市封鎖解除に伴い、部品供給面の制約も緩和され、積み上がった受注残や輸出増に対する増産等、内需主導での緩やかな回復が見られました。

当社グループを取り巻く機械器具関連業界におきましては、急激な円安の進行により素材産業では収益を圧迫する反面、加工産業にはプラス面が大きく、企業は積極的な投資姿勢を維持しており、能力増強投資に加え、デジタル化や脱炭素化に向けた取り組みも底堅く推移しております。

このような状況の下、第3次中期経営計画『New Dedication2023』～新たな貢献へ～の2年目の取り組みを着実に実行し、継続的な成長と持続可能な社会の実現に取り組んでおります。

具体的には、製造業が抱える課題の解決に向け、当社の強みである物流機能を活かした部材調達の改善や生産管理の効率化等、積極的な提案活動に取り組みました。

設備面では、かねてより業務効率化のため改修を行ってまいりました東大阪ビルの工事が2022年9月に完了し、また、同月に手狭となっておりました八日市支店を新築移転いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高653億8千万円（前年同期比10.5%増）、営業利益31億2千4百万円（前年同期比30.9%増）、経常利益35億1千8百万円（前年同期比32.1%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、24億1千8百万円（前年同期比27.6%増）となりました。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ25億5千5百万円減少し、1,180億4百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ38億2千4百万円減少し、776億7千1百万円となりました。これは、電子記録債権が11億4千2百万円、商品及び製品が22億3千3百万円増加したものの、現金及び預金が41億8百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が8億8千7百万円、有価証券が20億3百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ12億6千9百万円増加し、403億3千2百万円となりました。これは、投資有価証券が10億3千4百万円増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ24億1百万円減少し、348億5千万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ19億7千2百万円減少し、270億1百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が7億1千8百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ4億2千8百万円減少し、78億4千9百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金が6億7千8百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ1億5千4百万円減少し、831億5千3百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ41億2千6百万円減少し、115億2千6百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、7億9千2百万円（前年同期において得られた資金19億1千1百万円）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が35億1千8百万円、減価償却費が8億2百万円あったものの、棚卸資産の増加額が21億8千万円、法人税等の支払額が13億1千5百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、11億8千5百万円（前年同期において使用した資金14億2千5百万円）となりました。これは主に、有価証券の償還による収入が20億円あったものの、有形固定資産の取得による支出が11億8千1百万円、投資有価証券の取得による支出が19億8千6百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、22億7千1百万円（前年同期において使用した資金14億9千9百万円）となりました。これは、配当金の支払額が20億3千9百万円あったこと等によるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	126,000,000
計	126,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	31,886,000	31,886,000	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株で あります。
計	31,886,000	31,886,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年9月30日	-	31,886,000	-	5,368	-	6,283

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日伝共栄会	大阪府中央区上本町西一丁目2番16号	3,916	12.47
日伝仕入先持株会	大阪府中央区上本町西一丁目2番16号	2,402	7.65
株式会社利双企画	大阪府中央区上本町西一丁目2番16号	1,700	5.41
日本スタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,559	4.96
株式会社百十四銀行	香川県高松市亀井町5番地の1	982	3.12
日伝従業員持株会	大阪府中央区上本町西一丁目2番16号	969	3.08
西木 進	奈良県奈良市	917	2.92
西木 利彦	奈良県奈良市	840	2.67
有限会社ニシキ興産	大阪府中央区上本町西一丁目2番16号	747	2.38
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	700	2.22
計	-	14,734	46.92

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 482,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,398,900	313,989	-
単元未満株式	普通株式 4,600	-	-
発行済株式総数	31,886,000	-	-
総株主の議決権	-	313,989	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式42株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 株式会社日伝	大阪府中央区上本町西 一丁目2番16号	482,500	-	482,500	1.51
計	-	482,500	-	482,500	1.51

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,142	12,034
受取手形、売掛金及び契約資産	24,016	23,128
電子記録債権	16,274	17,417
有価証券	11,406	9,402
商品及び製品	13,004	15,237
その他	665	456
貸倒引当金	12	4
流動資産合計	81,496	77,671
固定資産		
有形固定資産	18,923	19,409
無形固定資産	1,060	791
投資その他の資産		
投資有価証券	17,620	18,654
その他	1,459	1,476
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	19,079	20,131
固定資産合計	39,063	40,332
資産合計	120,560	118,004
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,176	11,458
電子記録債務	12,265	12,398
未払法人税等	1,395	1,182
賞与引当金	514	583
その他	2,621	1,379
流動負債合計	28,974	27,001
固定負債		
退職給付に係る負債	84	87
その他	8,193	7,761
固定負債合計	8,277	7,849
負債合計	37,252	34,850
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,368	5,368
資本剰余金	7,283	7,283
利益剰余金	65,533	65,911
自己株式	672	672
株主資本合計	77,512	77,890
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,682	5,004
為替換算調整勘定	112	258
その他の包括利益累計額合計	5,795	5,263
純資産合計	83,307	83,153
負債純資産合計	120,560	118,004

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)
売上高	59,151	65,380
売上原価	50,724	55,786
売上総利益	8,426	9,594
販売費及び一般管理費	6,038	6,470
営業利益	2,387	3,124
営業外収益		
受取配当金	112	134
仕入割引	168	183
為替差益	19	163
その他	80	79
営業外収益合計	380	561
営業外費用		
支払利息	89	84
固定資産処分損	-	75
その他	15	6
営業外費用合計	105	167
経常利益	2,662	3,518
税金等調整前四半期純利益	2,662	3,518
法人税、住民税及び事業税	847	1,110
法人税等調整額	79	10
法人税等合計	767	1,099
四半期純利益	1,894	2,418
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,894	2,418

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,894	2,418
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	239	678
為替換算調整勘定	57	146
その他の包括利益合計	297	531
四半期包括利益	2,192	1,886
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,192	1,886

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,662	3,518
減価償却費	712	802
売上債権の増減額(は増加)	1,892	379
棚卸資産の増減額(は増加)	1,496	2,180
仕入債務の増減額(は減少)	1,168	456
その他	1,202	876
小計	2,357	427
利息及び配当金の受取額	149	180
利息の支払額	89	84
法人税等の支払額	505	1,315
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,911	792
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	23	26
定期預金の払戻による収入	5	11
有価証券の取得による支出	1,000	-
有価証券の償還による収入	-	2,000
有形固定資産の取得による支出	1,946	1,181
投資有価証券の取得による支出	43	1,986
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,702	23
その他	120	24
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,425	1,185
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	1,255	2,039
リース債務の返済による支出	244	231
自己株式の取得による支出	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,499	2,271
現金及び現金同等物に係る換算差額	27	122
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	986	4,126
現金及び現金同等物の期首残高	17,967	15,652
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,981	11,526

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	65百万円	74百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
従業員給与	2,120百万円	2,167百万円
賞与引当金繰入額	513百万円	583百万円
退職給付費用	169百万円	171百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	17,471百万円	12,034百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	490百万円	508百万円
現金及び現金同等物	16,981百万円	11,526百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,256	40.00	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	2,041	65.00	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

当社グループの事業は、動力伝導機器、産業機器、制御機器等の機械設備及び機械器具関連商品の販売の単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントがないため記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社グループの事業は、動力伝導機器、産業機器、制御機器等の機械設備及び機械器具関連商品の販売の単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントがないため記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

商品区分別に分解した売上高は以下のとおりです。

(単位:百万円)

商品区分	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
動力伝導機器	25,622	28,678
産業機器	13,035	15,056
制御機器	20,493	21,646
顧客との契約から生じる収益	59,151	65,380
その他の収益	-	-
外部顧客への売上高	59,151	65,380

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益	60円34銭	77円02銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,894	2,418
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,894	2,418
普通株式の期中平均株式数(千株)	31,403	31,403

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月10日

株式会社 日伝
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平井 啓仁

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西野 尚弥

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社日伝の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社日伝及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。